

つきたい力

- ・情報を適切に取捨選択する力
- ・伝えたい内容を適切に要約する力
- ・相手に伝わりやすいよう、工夫して表現する力

取組みの概要・ポイント

情報の正確さを意識し、インターネット資料と図書資料それぞれの良さを理解し使い分けて情報を集める。シンキングツールを活用して情報を分類し、要点をおさえて相手に伝わりやすいよう発表する。



シンキング
ツール活用
目標

具体的な取組みの内容

情報を取捨選択する

●情報の正確さを意識した調べ学習

4年生社会科「勝手に観光大使」

インターネット資料と図書資料を使い分け、それぞれ担当する都道府県の名産品、名所、特産物などの特色を調べ、正しい情報が確認し、出典を明らかにして発表する。

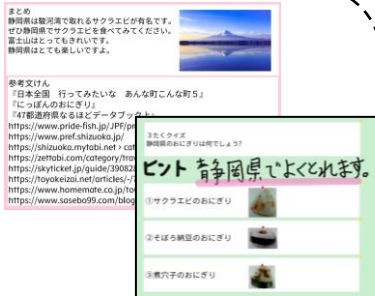
●シンキングツールの活用

3年生国語科「山小屋で3日間過ごすなら」(研究授業)

「山小屋で自然と触れ合い、普段子どもだけではできないことをする」としたら何をしたいかグループで話し合い、そのために何を持っていきたいか家庭で考えてくる。ベン図を用いて考えを比較・分類しながら話し合う。



研究授業指導案



わかりやすく表現する

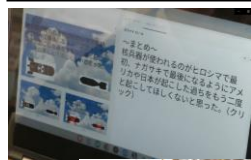
●写真や文章などの見せ方を工夫する

5年生「桃の木うみうみプロジェクト」

グラフィックデザインツール「Canva」を用いて、大阪の海を守るためのインフォグラフィックや動画(CM)づくりをする。決められた大きさや時間の中に思いを表現するため、伝える内容を精選し、写真や文章の見せ方を工夫する。

●伝えたいことを要約し、ポイントをしばって学校外の相手に伝える

6年生総合的な学習の時間「修学旅行報告会をしよう」



紀の川市立粉河小学校の6年生とオンライン会議ツール「Zoom」で、修学旅行に行った報告会をする。広島に行って平和について調べただけでなく、感じたことを大切にして、伝える内容を工夫する。自分の発表は画面収録し、動画をグループで共有してアドバイスしあう。スライドの文字は短く、話す言葉は端的にまとめるようにして発表する。



児童の作品例
(インフォグラフィック)

職員のICT活用 スキル向上 のために

- ・担当者が授業者の相談に乗り、授業の際はTTで入り込み支援を行う
- ・ICT活用研修を実施する(ロイロノートスクール、シンキングツール、プログラミング等) 同じ研修を2回開き、全職員がどちらかの研修に必ず参加するようにする
- ・職員向けICT通信を発行する
- ・情報活用能力系統表の簡易版を児童にも示すことで、授業者への活用の促しにつなげる



情報活用能力
系統表

←簡易版
詳細版→



取組みを通しての子どもの変容

- ・ICT機器活用の頻度が上昇(「毎日タブレットを使っている」と回答した児童58%→75%)
- ・ローマ字学習を先取りし、タイピングの練習を繰り返したことで、3年生でのタイピング技術が向上。
- ・高学年では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫する児童が増えた。(「自分の考えや調べたことを、プレゼンテーションソフトなどを使ってわかりやすく人に伝えることができる」と回答した児童53%→63%)